

『お兄ちゃんのままです』

●弓狩 信矢（ゆがり しんや）

実兄

33歳

身長 182センチ

体重 95キロ ジムでガチガチに鍛えている

黒髪

清潔感のあるツーブロック

装備：真面目そうな黒縁眼鏡 色物のワイシャツ 胡散臭い笑み

子供のころに虐待されていたため、傷が全身にある

ヒロインより10歳年上。腹違いの兄。いわゆる妾腹

ヒロインの母である正妻が女兒しか授からなかったうえにお産でなくなつたため、ヒロインが産まれた瞬間の十歳から跡取りとして家に入った。

実母が金と男にだらしない性格だったため、女性嫌悪の毛があるが、産まれたばかりのヒロインを見て「なんで純粹できれいな生き物なんだろう」と感動する。

少女を人買い同然に嫁にするロリコンを教えきれないほどみてきたため、「この子は自分が絶対に守ってやらなければ」と決意。

それ以降、ヒロインからすべての不幸を先回りで排除するよう努めているが、信矢が「ヒロインのために必要だ」と感じた試練はあえて与えることもある。

ヒロインに必要なものは本人よりも自分が理解していると考えており、箱庭で人形を飼うようにヒロインを大切に支配している。

しかし友人関係すら厳しくチェックする過保護さがあだとなり、一度ヒロインに家出同然の形で逃げられるが、裏で手を回してヒロインに「社会の厳しさ」を教えて無事に実家に連れ戻すことに成功する。

ヒロインはお屋敷で何もせずのびのびと暮らしているのが正解だと信じ

1 ているし、なんなら自分が結婚するのが一番だと思っているが、それが社
2 会的に許されないという自覚もあるし、何よりヒロインに嫌われたくない
3 のできちんと「厳格だけど優しいお兄ちゃん」の仮面をかぶり続けてき
4 た。

5 弟のことは殺していないが、それを疑われたことで仮面を叩き壊され、支
6 配的で歪んだ本性を隠さずに表すようになる。

7
8 ●高原 真琴（たかはら まこと）
9 弟

10 18歳

11 身長 173センチ

12 体重 63キロ ひよろつとしている

13 茶髪 ふわっとした髪質

14 装備：安物のロンティー ジーパン 明るい笑顔

15
16 信矢の弟。

17 信矢の母が別の男と適当に作った子供なので、ヒロインとは全く血がつな
18 がっていない。

19 無責任な実母によって屋敷の前に遺棄され、仕方なく引き取られたが、弓
20 狩の血が入っていないので当然跡取りになどはなれないし、弓狩の性も名
21 乗れない。

22 甘え上手で姉ちゃんのことガスキスキ大好き。母似で甘え上手。将来自立
23 した生活が送れるようにという兄の方針で、きちんと「外の世界」を知っ
24 てるからこそ、兄の異常性に違和感を抱き、ヒロインを解放してあげたい
25 と思っている。しかし偶然にも不幸な事故に遭い、ヒロインに信矢への疑
26 念を植え付けた状態で他界する。

27
28 ●ヒロイン 23歳

29 大学を無事に卒業し、東京の大学に就職するも、ストーカー被害とパワハ
30 ラと激務の果てに仕事でありえないミスを起こし、会社にいられなくなっ
31 て泣く泣く実家に戻ってくる。

32 兄は「お前に労働は向いていない」と優しく教え諭すが、天国のお母さん

1 に恥ずかしくないように立派なキャリアウーマンになりたい。
2 素敵な男性と恋もしたい。
3 過保護すぎる兄の存在が息苦しくなって就職したが、社会の厳しさに打ち
4 のめされて実家に帰ってくることに。
5 昔信矢の後ろをびよびよついてまわっていたので「ヒヨ子ちゃん」のあだ
6 名をさずかっている。
7 藪の蛇を突いて命取りになった。
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32

トラック1 大人ごっこ

上京したヒロインに信矢が電話をかける。

SE:電話の着信音

SE:電話に出る

【3 電話口】

信矢「あ、もしもし？ 今、大丈夫かな。

よかった。そろそろ引越し業者が帰って、
ちよつと落ち着いたころかなと思って」

【ヒ「どうしてわかったの？」】

信矢「うん？ お兄ちゃんには何でもわかるんだよ。

初めての一人暮らしの滑り出しはどんな感じ？

【少し意地悪く】もちろん、順調だよね。

お兄ちゃんの反対を押し切って、

無理やり東京に就職したんだから。

ネットの契約がわかんないよお、とか。

部屋に虫が出たよ助けてえ、とか。

泣き言言ったりしないよね」

【ヒ「子供じゃないんだから大丈夫」】

信矢「そうだね。もう子供じゃない。

けど、僕にとっては、いつまでも小さな妹なんだ。

いつも僕のあとをついてまわって、家政婦さんに

“お嬢様はヒヨコさんですね” って笑われてた時のままの、

かわいいかわいいヒヨちゃんなんだよ」

【ヒ「ちゃんと一人で大丈夫」】

1 【3】

2 信矢「自信があるのはいいことだけど……」

3 【真面目に】「たとえ大人でも、強くても、賢くても、

4 一人じゃどうにもならないこともある。

5 悪い大人が本気になったら、

6 優しくて穏やかなお前は太刀打ちできない。

7 辛いと思ったら、無理せずに戻っておいで。

8 お前の部屋はそのままにしておくから。

9 お兄ちゃんとの約束。いいね？」

10
11 【ヒロイン「わかった」】

12
13 信矢「いい子だ。」

14 それじゃ、バランスのいい食事と規則正しい生活を心がけ、

15 何もなくても、毎日必ず連絡すること。

16 真琴も大好きなヒヨ姉ちゃんの近況報告楽しみにしてるから。

17 また明日——【少し笑って】「また後で」かもしれないけど。

18 一人で寝るのが怖くなったら電話しておいで」

19
20 【ヒロイン「怖くない！」】

21
22 信矢「っはは！ ごめんごめん。じゃあ、おやすみ」

23
24 S E : 電話切る

25
26
27
28
29
30
31
32

トラック2 おかえり

就職してから半年程度の秋ごろ、仕事に失敗して実家に戻ってきたヒロイン。

お兄ちゃんと弟がヒロインの帰還を喜んでくれる。

【屋敷に向かってトボトボ歩くヒロインを、「二人だと家に入りにくいかな」と心配した真琴が出迎え、屋敷に迎え入れる】

SE:ヒグラシの鳴き声フェードイン

SE:ヒロインのすり足気味の足音

【9】

真琴「おーい！ 姉ちゃーん！」

【真琴、ヒロインに駆け寄る】

SE:駆け寄ってくる足音

【1】

真琴「お帰り。」

今さ、家でじっと待ってられなくて、

駅まで迎えに行こうとしてたところなんだ。

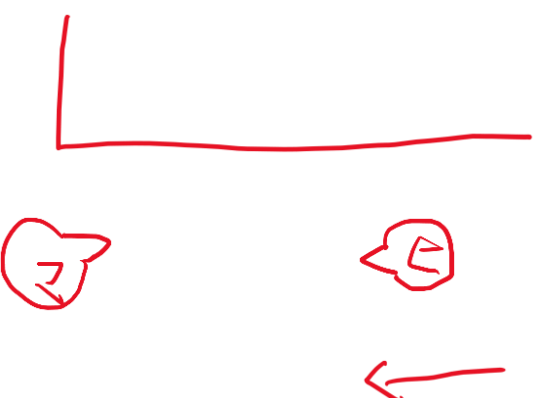
あ、荷物持つよ」

SE:衣擦れ

真琴「信にいが、今夜は姉ちゃんの好物ばかりだった！

姉ちゃんが帰ってきた記念パーティー！」

【ヒロイン「仕事をクビになって帰ってきたのに？」】



1 【1】
2 真琴「えー？ クビって言うか、自分で辞表出したんだろ？
3 上司に嫌がらせされて、激務で寝る時間もなくて……
4 おまけにストーカーに追い回されて？
5 そんな毎日だったらミスなんてして当然だし、
6 守ってくれない会社なんてやめて正解。
7 っつか就職したのがそもそも間違いつて
8 信にいても言つてたよ。姉ちゃんは悪くない！
9 ほら、行こう。信にいても待つてるから」

10
11 【屋敷に向かって歩き出す二人】
12

13 SE:一人分の足音
14

15 【ヒロイン「お兄ちゃん、呆れてた？」】
16

17 【15 隣を歩く距離 前を見ながら】
18

19 真琴「え？ 信にいが？ 姉ちゃんに？
20

【笑つて】呆れたりなんて、するはずないじゃん。
21

だって信にいだよ？
22

世界で一番姉ちゃんの事大事に思ってるんだから、
23

むしろ姉ちゃんのこといじめた会社にブチギレてたよ」
24

25 SE:足音ストップ
26

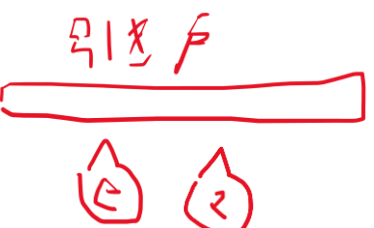
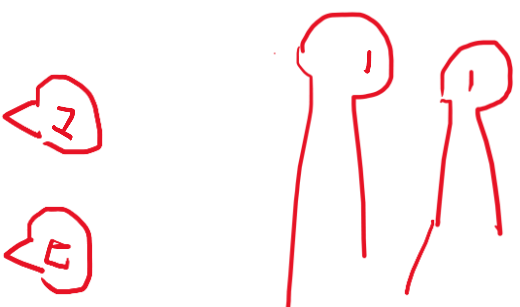
27 SE:引き戸ガラガラ
28

真琴「ただいまー！
29

姉ちゃん、すぐそこまで来てたよ！」
30

31 SE:靴を脱ぐ
32

SE:近づいてくる足音



1 【9→1】

2 信矢「だから、大人しく待ってろって言っただろ？」

3
4 【7 隣に立つ距離 信矢を見て】

5 真琴「だって早く会いたくて。」

6 信にいだってそうだろ？」

7
8 【9】

9 信矢「【真琴をみて】僕は大人だから、

10 会いたくても静かに待ってられるんだよ。

11 【ヒロインを見て】おかえり、ヒヨちゃん。

12 大丈夫？ 疲れてない？」

13
14 【ヒロイン「大丈夫」】

15
16 信矢「ならよかった。

17 先にお風呂に入っておいで。

18 出てきたらごちそうの準備出来てるから」

19
20 【7 隣に立つ距離】

21 真琴「【信矢を見て】俺すげー腹減った！

22 【ヒロイン見て】姉ちゃん、さっさと入ってきてよ！

23 あ、荷物部屋に運んどくから！」

24
25 【真琴、ヒロインの荷物を持って奥に走っていく】

26
27 SE:走る足音フェードアウト

28
29 信矢「まったく、十八にもなって落ち着きのない。

30 気にしないで、ゆっくり入っておいで。

31 東京の賃貸の風呂じゃ、足も延ばせなかっただろうしね」

32



1 SE:二人分の足音フェードアウト

2
3 間

4
5 SE:食器の音フェードイン

6
7 【3 隣に座る距離】

8 真琴「もぐもぐ……うまい！」

9 今日の晩飯、マジで気合入ってる。

10 やっぱ姉ちゃんが家にいると違うなあ。

11 信にいい、姉ちゃんがないと

12 全然部屋から出てこないんだ」

13
14 【9 テーブルをはさんで正面】

15 信矢「仕事が忙しいんだ。

16 弟の顔見ながら食べても、別に楽しくもないしな」

17
18 真琴「飯時どころか、家のどこにいいのか謎なレベルじゃん。

19 だから俺、毎日一人で飯くってんの。

20 姉ちゃんが帰ってきてくれて、すげー嬉しい！

21 しばらく実家で暮らすんだろ？」

22
23 【ヒロイン「迷惑じゃなければ」】

24
25 SE:衣擦れ

26
27 信矢「迷惑なんて……そんなこと思うはずない。

28 心と体を休めながら、

29 将来についてゆっくり考えてみたらいい。

30 暇なら何か新しく習い事をしてもいいしね」

31
32



1 【3 隣に座る距離】

2 真琴「そうだよ姉ちゃん。
3 せっかくだし、一緒にダラダラしてすごそう」
4

5 【9 テーブルをはさんで正面】

6 信矢「お前は受験勉強があるだろう」
7

8 真琴「ちゃんと勉強もしてますう〜。

9 信にいほどじゃないけど、俺ちゃんと成績いいし。
10 あ、そうだ！

11 俺が東京の大学に合格して、
12 姉ちゃんがまた東京の企業に就職決まったら、
13 二人で一緒に暮らそうよ！ 名案じゃない？」
14

15 信矢「ダメだ。お前はヒヨと血がつながってないだろうが。
16 二人暮らしなんて父さんが許すはずない。」
17

18 真琴「えー？ でも、産まれたところから一緒にいるし。

19 信にいと半分繋がってるし？
20 信にいと姉ちゃんも半分繋がってるし？
21 ってことは俺と姉ちゃんも概念的には繋がってるみたいな」
22

23 信矢「【きつぱり】と繋がってない。

24 【ため息交じりに】まったく、両親が男女関係にだらしないせいで、
25 血縁関係がめちゃくちゃだ」
26

27 【ヒロイン「血は繋がってなくても、真琴は弟だよ」】
28

29 SE:衣擦
30

31 真琴「ほら、姉ちゃんも俺のこと、ほんとの弟だって」
32

1 【9 テーブルをはさんで正面】
2 信矢「ヒヨ。またそうやって真琴を甘やかして……」
3

4 【3 隣に座る距離】

5 真琴「そんなに気になるなら、いつそ俺と姉ちゃんが婚約するのは？
6 婚約者と結婚を前提に同棲ならよくない？」
7

8 信矢「いいわけあるか。お前とヒヨが釣り合うわけないだろ。
9 お兄ちゃんは許しません」
10

11 真琴「出た。信にいの超過保護。
12 そんなんだから姉ちゃんは彼氏いない歴イコール年齢に
13 なっちゃったんだからな」
14

15 信矢「当たり前だろ。弓狩家の長女なんだから。
16 ヒヨには父さんと相談してふさわしい相手を
17 見つけることになってるのに、
18 彼氏なんて作って浮ついてたら逆に問題だ」
19

20 【ヒロイン「父さんと言えば、具合はどう？」】
21

22 SE:衣擦れ
23

24 信矢「ん？ まあ、父さんの具合は……そうだな。
25 正直に言うと、あまりよくはない。
26 けど、ヒヨが心配することじゃないよ。
27 父さんはああいう性格だし、
28 変に心配しても嫌なこと言われるだけだから」
29

30 真琴「でも、俺なんかの学費とか全部出してくれてるし、
31 俺は弓狩おじさんにすげー感謝してるよ。
32 口は悪いけど、姉ちゃんが見舞いに行ったら絶対喜ぶと思う」

1 【9 テーブルをはさんで正面】
2 信矢「いなくていい。」

3 さ、この話はもう終わり。ごちそうを楽しもう」
4

5 SE:食器の音フェードアウト
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32

トラック3 おみせやさん

信矢「気晴らしにデートに行こう」と言ってくれる。

お兄ちゃんの異常な独占欲を感じさせるほのぼのデートトラック。

時間…日中

場所…ホテルの一室

【ヒロインを連れて、ホテルにやってくる信矢。ヒロインはどこに行くか知らされておらず、目を閉じた状態で部屋に誘導される】

SE:エレベーターがあく音

【1】

信矢「はい、じゃあ今からエレベーターを降りるから、

まっすぐ僕が手を引く方に歩いてきてね。

ちゃんと目、閉じてる？

うすめ開けたりしてないよね」

SE:一人分の足音

【ヒロイン「どこに行くの？」】

信矢「んー。どこに行くかはまだ内緒。

でも、もうすぐだから。

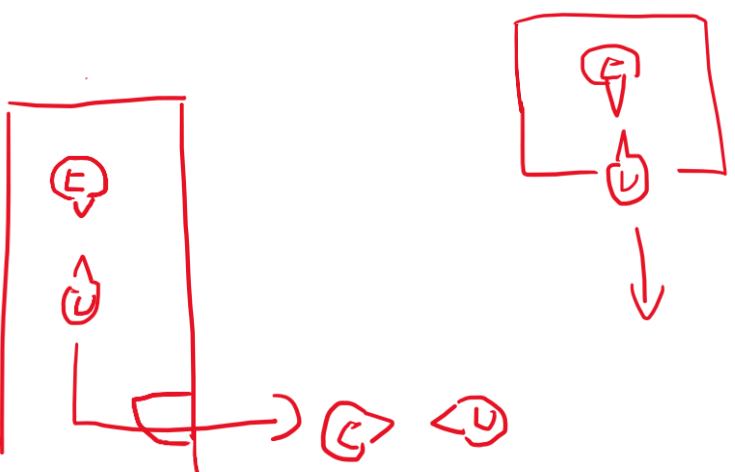
怖がらなくても大丈夫。

お兄ちゃんが、ちゃんと手を握っててあげるから」

SE:ドアが開く（外商があける）

SE:二人分の足音5歩くらい

信矢「はい、ここでストップ。でも、まだ目は閉じたまま」



1 SE:足音ストップ

2
3 【信矢、ヒロインの背後に回って背中に両肩を置く】

4
5 SE:信矢の足音

6
7 【1→6】

8 信矢「さあ、もういいよ。

9 目を開けて、お姫様」

10
11 【ヒロインが目を開けると、ホテルの一室にありとあらゆるブランドの服
12 やバッグやアクセサリーがずらりと並んでいる】

13
14 【6】

15 信矢「びっくりした？

16 半年とはいえ、東京で一人暮らしは
17 生活も苦しくて大変だったでしょ？

18 だから今日は思いっきり贅沢させてあげたくて、
19 外商さんに頼んでヒヨちゃんに似合いそうなもの
20 全部集めてもらったんだ。

21 ここで好きなだけオシャレを楽しんだら、
22 ワガママが全部かなうデートに出かけよう。

23 嫌なことなんて全部忘れるくらい楽しませてあげる」

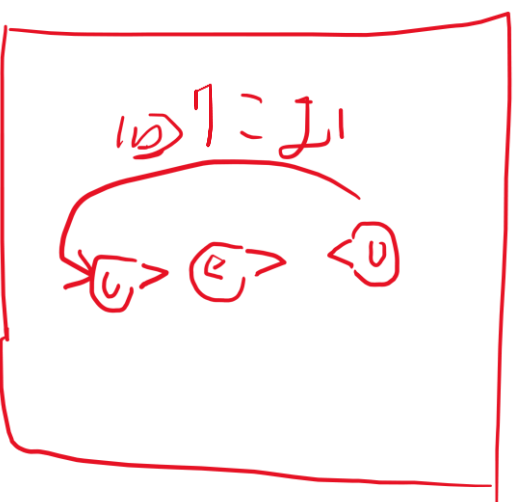
24
25 【ヒロイン「こんなに高い物、簡単に買ってもらえない」】

26
27 信矢「おっと……たった半年の一人暮らしで、

28 驚くほど普通の金銭感覚になって帰ってきたな」

29
30 【信矢、次のセリフを言いながらヒロインを振り向かせる】

31
32



1 【6→1】

2 信矢「ヒヨ、こっち向いて」

3

4 SE:衣擦れ

5 SE:向き変える足音

6

7 【1 顔を覗き込む】

8 信矢「いいかい？」

9 人は立場によって、装いを変えなければならない。

10 東京で新人会社員をしたときは、

11 当然全身をブランドで固めてたら浮いただろうし——

12 【理解を示すように】実際、それが理由で先輩たちに嫉妬された。
13 そうだね？」

14

15 SE:領ぐ衣擦れ

16

17 信矢「でも、ここでのお前は中小企業の新人じゃない。

18 弓狩家の長女で、奥方様の血を分けた唯一の実子だ。

19 そのお嬢様に一枚1300円のブラウスを着せて歩かせたら、

20 僕は間違いなく父さんに破門される」

21

22 【ヒロイン「そんなことないと思うけど」】

23

24 信矢「あるんだよ、そんなことが。

25 妾腹の立場なんて、お前が思ってるよりずっと危うい。

26 もちろん、ここに気に入る物がないなら

27 すべて持って帰らせるけど……

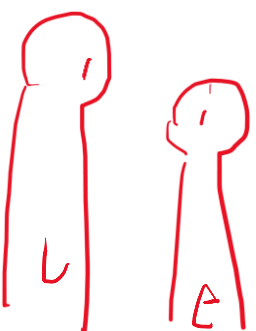
28 そうすると品物を用意してくれた外商さんが、

29 偉い人に怒られることになっちゃうねえ」

30

31 【ヒロイン「それは困る」】

32



1 【1 少し離れて】

2 信矢「だから、ヒヨちゃんのここでの仕事は、
3 お金のことなんて気にしないで買い物を楽しむこと。

4 【明るく】心配しなくても、ここにあるもの全部買ったって、
5 大した金額にはならないよ。

6 僕と——これからはお前にとってもね」

7
8 信矢「それに、僕はかわいく着飾ってるお前を見ると

9 本当に幸せな気分になるんだ。

10 七五三の着物のときも、成人式の振袖も、

11 毎回新鮮に、世界一かわいいって感動してた。

12 唯一の不満は、その可愛さを独り占めできないこと」

13
14 信矢「でも今日は、お兄ちゃんだけのヒヨちゃんに会えるんだ。

15 それだけで、毎週だってお買い物デートしたいと思うけどね」

16
17 【ヒロイン「それってなんだかパパ活みたいじゃない」】

18
19 信矢【大ショック】ば……。パパ活!?

20 そ、そんな概念をどこで……

21 っていうか僕はまだ33でパパというほどでは……!

22 いや、十歳差はもうそんな感じか……。?」

23
24 【ヒロイン、大慌てで謝る】

25
26 SE:慌るる衣擦れ

27
28
29
30
31
32

1 【1】

2 信矢「いや、いいんだ……！」

3 怒ってるわけじゃないよ。全然。

4 ただ……はあゝ【深いため息】。

5 【気を取り直して】ただお兄ちゃんは、
6 結構深く傷つきました」

7
8 【ヒロイン「ごめんなさい」】

9
10 信矢「もう謝らなくていいって。

11 あ、でもそうだな。

12 じゃあ、昔みたいにごめんなさいのちゅー、
13 頬っぺたにしてくれたら許そうかな」

14
15 【ヒロイン、普通にキスする】

16
17 SE:衣擦れ

18 SE:キス音

19
20 信矢【少し驚いて】え……？

21 あ、えっと……

22 そんな、普通にキスしてくれるんだね」

23
24 【ヒロイン「だって兄妹だし」】

25
26 信矢「兄妹……まあ、そうだね。

27 そうだけど……うーん……！

28 あのね、一個約束してほしいんだ。

29 真琴には、ほっぺにちゅーも禁止。いいね？

30 お前がどんなにあいつを弟だと思ってても、

31 血は繋がってないんだ。

32 お兄ちゃんとの約束。ね？」

トラック4 ひとりぼっち？

トラック3から数日後、信矢の留守を狙って真琴が部屋に遊びに来る。

場所：ヒロインの部屋

時間：昼

SE:ノック

【16 ドアの方こう】

真琴「姉ちゃん、ちょっと話があるんだけど、いい？」

SE:ドア開く

【ヒロイン「学校はどうしたの？」】

【6】

真琴「え？ あー……学校はまあ、午後だけ自主休学みたいな？
だって出席日数足りてるし、正直授業出ても意味ないし」

【ヒロイン「サボったんだ」】

真琴「サボったって言うか……」

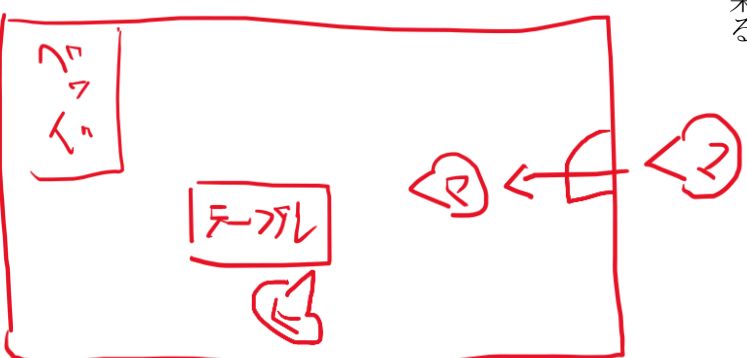
【気まずいため息】ねえ、部屋、中入っていい？」

【ヒロインに促され、入室する真琴】

SE:頷く衣擦れ

SE:一歩部屋の中へ

SE:ドア閉まる



【6】

真琴「姉ちゃんの部屋入るの、すげー久しぶり。
隣座っていい？」

【真琴、ヒロインの隣（ソファ）に座る】

SE:真琴の足音

SE:ソファに座る

【7 隣に座る距離】

真琴「へへ……なんか変な感じ。
だって気づいてた？
姉ちゃんが帰ってきて一週間も経つの、
俺たち一回も二人きりになってないって」

【ヒロイン「そういえば……」】

真琴「それどころかこっち帰ってきてから、
信に以外と誰とも、どこにも遊びにいつてない。

【ヒロインを見て】——「だろ？」

SE:肯定の衣擦れ

【1】

真琴「やっぱりなあ！
信にいは、せつかく帰ってきた大事なヒヨちゃんを
誰にも会わせたくないってわけ。
このままだと、姉ちゃん一生信にいとしか話せないかもよ？」

【ヒロイン「怖い事言わないで」】



1 【1】

2 真琴「半ば呆れて」いや割とマジでさ。
3 信にいの過保護ってほとんど病気だし」
4

5 真琴「この前だって、姉ちゃんが新しい就職先探そうとしてるのに、
6 “お前は労働に向いてない”とか言っちゃってさ。
7 俺、姉ちゃんはめっちゃ仕事できると思うけど」
8

9 【ヒロイン「本当にそう思う？」】
10

11 真琴「思うよ！ マジで思う！
12 だからさ……
13 この前ちらつと話した東京で二人暮らしの話だけど……
14 まじめに考えてみない？
15 ストーカーとか不審者とか、
16 男と一緒に住んでるだけで激減するっていうだろ？
17 俺もバイトするし、今までのバイト代もちゃんと溜めてるし、
18 知らないやつと学生寮で相部屋になるより、
19 姉ちゃんと暮らす方が絶対楽しいと思うし」
20

21 【ヒロイン「でも、お兄ちゃんが反対するよ」】
22

23 真琴「そりや信にいは大反対するよ。
24 でも、自分のことは自分で決めていいだろ？
25 姉ちゃんは、どうしたい？
26 一生ここで、信にいの言う通りに弓狩家の長女やって、
27 お見合いで決められた男と結婚するのがいい？」
28

29 SE：否定の衣擦れ
30
31
32

【1】

真琴「な？ いやだろ？」

「ってか、それが嫌だから信にいの反対押し切って就職したんだもんな。」

真琴「だからさ、もう一回チャレンジしようよ。」

次は絶対成功するから！

しかも俺は大学出たら大企業に一発で就職するから、四年後には俺と姉ちゃんの稼ぎで、タワマンとかに住み始めてるってわけ」

【ヒロイン「その自信はどこから」】

真琴「だって俺、信にいの弟だし。」

半分だけど、あの完璧超人と同じ血が流れてるって思ったら、嫌でも自信湧いてくるでしょ？

信にいの半分だよ！？ それって一般人の何倍だよって話」

【ヒロイン「確かに」】

真琴「だから姉ちゃんも自信もって。」

最高の就職先見つけて、信にいを見返してやろう！

【おどけて】……なんて、俺がこんなこと言って姉ちゃんを

そそのかしたってバレたら、信にいに殺されるかも。

だって、姉ちゃんに言い寄った男って、

なんだかんだ全員事故ったり謎の入院してない？

【わざと真面目ぶって】信にいならやりかねない。いやマジで。」

【真剣に考えこむヒロイン】



【1】

真琴「いや、それはマジになりすぎ！

なに？ 心当たりあるの？

こえー！

もしもの時はちゃんと守ってくれよな、姉ちゃん」

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32

トラック5　ばいばい

ある日電話をとると、死にゆく弟からの電話だった、

信矢から真琴が事故死したという連絡を受けるヒロイン。

信矢は泣き崩れるヒロインを慰めるが、ヒロインはそれを拒絶する。

【夜、バイト帰りに突っ込んできたバイクにひき逃げされる真琴。即死を免れた真琴が電話をしたのは、救急車ではなくヒロインだった】

SE：スマホの着信音

【3　電話口】

真琴「【死にかけ】はあ……はあ……姉ちゃん？

聞こえてる？　はあ……ごめん、なんか……

バイクが、突っ込んできて……え？　何これ、血……？

どうしよう、止まんないや……どうしよう……

ああ、くそ……ごめん姉ちゃん。ごめん。

俺、姉ちゃんの事守れなくて……

ごめん、ごめん……【通話切れる】

SE：ヒロイン立ち上がる

SE：ドアを開ける

SE：廊下を走る

SE：ドアを勢いよく開ける

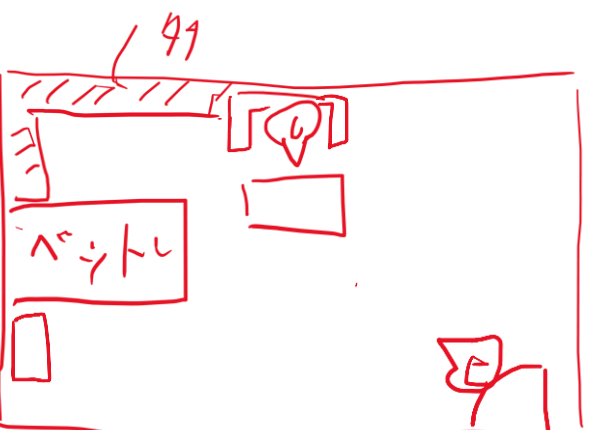
【自室でくつろいでいる信矢の部屋に飛び込むヒロイン】

【6】

信矢「うわ！　びっくりした……！

ヒヨ、部屋に入るときはノックくらい——」

【ヒロイン、真琴が事故にあったみたいだけど、どこで事故にあったか言わないうちに切れてしまったことをまくし立てる】



SE: 激しめの衣擦れ

【9】

信矢「真琴が事故って……わかった、わかったから落ち着いて。

あいつのバイト先は知ってる。

事故にあったなら、その帰り道のどこかのはずだし、

通行人がもう通報してるかもしれない。

とにかく、110番しながらバイト先に行ってみるから、

おまえは家で連絡を待ってて」

SE: 立ち上がる

SE: 部屋を出ていく足音フェードアウト

間

SE: 電話の着信音【ワンコールで出る】

【3】

信矢「あ、ヒヨ？ いたよ、真琴。

救急車がきて、今病院。

それで、さつき……さつきまで心臓、動いてただけど……

【深呼吸】……ごめん。間に合わなかった」

【その場にくずおれるヒロイン】

SE: 泣く

信矢「これから手続きとかいろいろあって、

今夜は帰れないと思う。

今、まともに連絡がつく真琴の肉親って僕だけだから」

1 【ヒロイン「私も行く。どこの病院？」】

2
3 信矢「いや、来なくていい。——来ない方がいい」

4
5 信矢「死因、バイクのひき逃げだったよ。」

6 それで……最後の電話で、あいつ何か言ってなかった？
7 どんないくだったとか、色とか……」

8
9 【ヒロイン「何も聞いてない」】

10
11 信矢「そうか……救急車を呼ぶより、

12 お姉ちゃんの声が聴きたかったんだろうね」

13
14 【ヒロイン「お兄ちゃんがやったの？」】

15
16 信矢「え……何？ 僕が何をやったって？

17 ヒヨ？ 聞こえてる？

18 もしもし？ もしもし 【ヒロインが電話切る】

19
20 SE:電話の着信音5秒ほど流してフェードアウト

21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32

トラック6 さがしもの

「朝まで帰れない」と言っていた信矢が帰宅すると、信矢の部屋で何かを探しまわっているヒロイン。

それを見て「本気で自分が真琴を殺したと思っているんだ」と確信し、信矢は優しいお兄ちゃんの仮面を脱ぐことに決める。

SE:がさい」と部屋をあさる

SE:背後でドアがあく

【ドアがあいたので、驚いて物を落とすヒロイン】

SE:ガタッ

SE:ドサドサドサ

【6】

信矢「あーあ、こんなに散らかして……」

僕の書斎で何か探し物？」

【ヒロイン、答えない】

【信矢、後ろ手にドアを閉める】

SE:ドア閉める

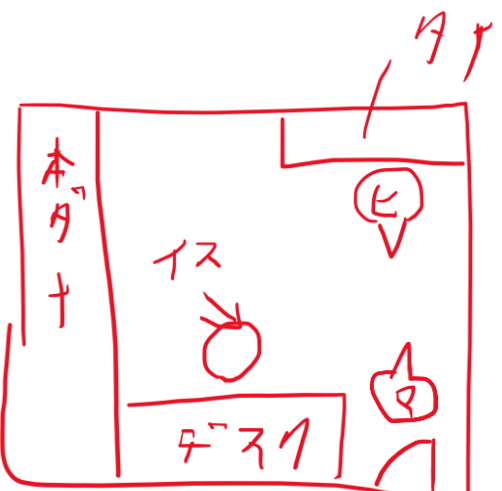
信矢「急に電話が切れたから、何かあったのかと思って。

何度かけなおしても出てくれないし、

心配で急いで帰ってきたんだ。

一体何があったんだい？」

【ヒロイン、答えずに信矢を見つめる】



【6】

信矢「【悲しげに】……なるほど、そうか。

あの電話、何かの聞き違いだと思ったけど……

僕をそういう目で見るってことは、

お前は本当に、僕が真琴を殺したと思ってるんだね」

【信矢、椅子に移動して座る】

SE:足音

SE:椅子に座る

信矢「【座りながら】それで、僕が留守の間に殺人の証拠探し？

出てくるはずないだろう、そんなもの。

あったとしても、僕が自分の部屋の、

すぐ見つかるような場所に保管するような間抜けじゃない」

【ヒロイン、黙り込む】

信矢「誰かのせいにしたい気持ちは分かるよ。

真琴の最後の電話を受けたのに、助けられなくてつらいよね。

僕だってそうだ。

いつもバイトの行き返りに使ってる道に真琴がいなくて、

駆けつけた警察と一緒に探し回ってる間、

心臓がねじ切れそうだった。

間に合わなかったと医者に言われて、僕が喜んだと思うのかい？」

【ヒロイン「いめんなさい」】

SE:控え目の衣擦れ

チ↑
↑

↑
↑
ガス↑

1 【9】

2 信矢「【ため息交じりに】謝ってほしいわけじゃない。

3 ただ……【大きめのため息】。

4 いくつかこうなる気はしてたんだ。

5 あいつは母親にそっくりだから、

6 きっとヒヨをたぶらかすだろうって」

8 【ヒロイン「たぶらかすって、どういう意味？」】

10 信矢「そのままの意味さ。

11 赤ん坊のころから、そうだった。

12 家の前に捨てられてた真琴を見て、

13 お前は「コウノトリが弟を運んできてくれた」って

14 大喜びしてね。

15 だから父さんは血も繋がってないあいつを引き取ったんだ」

17 信矢「その時の僕の気持ち、優しいヒヨちゃんにわかるかな。

18 僕は十歳まで、ひっきりなしに代わる

19 母さんの恋人に殴られて育ってきた。

20 その時についた傷のせいで、僕は夏でも半袖を着られない。

21 跡取りが必要だからと弓狩家に引き取られるまで、

22 生きてる理由がわからなかったし、いつか殺されると思ってた。

23 引き取られてからも、捨てられないように必死だったよ。

24 父さんは優秀じゃない僕を許してはくれなかったから」

26 信矢「なのに僕の弟は、産まれた直後からこの家で、

27 優しいお姉ちゃんに望まれて、愛されて育つんだ。

28 なんのプレッシャーも感じずにへらへら笑って、

29 殴られる心配も、飢える心配もなくていい」

31 【ヒロイン「だから真琴を殺したの？」】

32

1 SE:衣擦れ

2
3 【6】

4 信矢「苦々しく笑って」ひどい質問だな。

5 どうしても、僕が真琴を殺したことにしたい？

6 そんなに単純な話じゃないんだよ」

7
8 【信矢、立ち上がってヒロインに歩み寄る】

9
10 SE:立ち上がる

11 SE:ゆくりの足音

12
13 【6→1】

14 信矢「僕がわけもわからずこの屋敷に連れてこられた日、

15 産まれたばかりのお前を妹だと紹介されて驚いたよ。

16 あんまり綺麗で、可愛くて、宝物みたいな赤ちゃんで。

17 そして父さんがこう言った。

18 “この子のお産で妻が死んだから、お前を引きとったんだ” って。

19 お前は産まれた瞬間に、僕のことを救ってくれた」

20
21 SE:足音ストップ

22
23 【1】

24 信矢「だから僕はその時、僕の人生はこの子のために

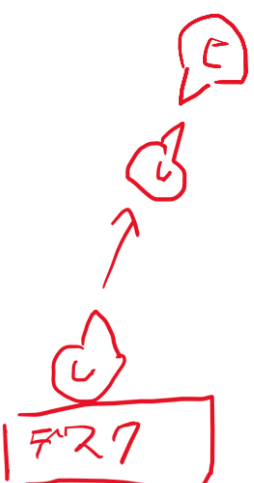
25 使おうと決めたんだ」

26
27 信矢「そのお前が溺愛してる弟を、

28 僕より恵まれてるからといって殺すと思うかい？

29 そんなことしたらお前が傷つくとわかってるのに！」

30
31
32



1 【1】

2 信矢「僕が悲しいのはね、

3 お前のために真琴の面倒を見てきたのに、

4 愛情すら見せる努力をしてきたのに、

5 その真琴のせいでお前に疑いの目で見られてることだ。

6 こんなことになるなら、

7 あんなガキとつと追い出せばよかった」

9 【ヒロイン「どうしてそんなひどい事いうの」】

11 SE:衣擦れ

13 信矢「【いらだって】ひどいのはどっちだ？

14 僕は真琴が事故にあった直後に、

15 お前に頼まれて自宅から110番してる。

16 それなのに僕を疑うってことは、

17 人を雇って殺させたと思ってることになる。

18 どうやってそれを否定すればいい？

19 やってない証拠は出せないんだ！」

21 信矢「だから——。

22 【ふっと力を抜いて】だから僕たちの信頼関係は、

23 これでおしまい。

24 お前は今後も僕を疑い続ける。

25 表面上は謝って、仲直りしたふりをしてても、

26 心のどこかで“もしかして”って。

27 そしてありもしない証拠も探し続けるんだ」

29 【ヒロイン「そんなことない」】

31 SE:強めの衣擦れ

【1】

信矢「軽く笑って」そんなことあるさ。

弟の殺人を疑うなんて、よほどのことだよ。

よほど〃もしかして〃と思う理由があるんだ。

責めてるんじゃない。

お前は小さいころから勘のいい子だったから、

きっと僕が隠してるいろんなものに、

無意識に気づいてたんだろうね」

【ヒロイン「隠してるもの……？」】

信矢「気になるかい？ 僕が何を隠してるのか。

じゃあ、面白いものを見せてあげよう」

【信矢、本棚の前に移動】

SE:足音

【9 ヒロインに背を向けて】

信矢「この部屋、元はおじい様の趣味の部屋だったらしいんだ。

物置になってたのを片付けて、

今は僕が書斎として使わせてもらってるんだけど、

間取りがなんだか妙だね。

気になって調べてみたら、

本棚に一冊だけ抜き出せない本があったんだ。

それをこうやって押し込むと——」

【本の背を一つ引くと、地下への隠し扉が開く】

SE:本を押す

SE:ガチャッと壁のドアが開く



【9 ヒロインを見て】

信矢「ね？ 壁の隠し扉が開いて、一階の秘密の部屋に行けるんだ。
さあ、お先にどうぞ。お姫様」

【ヒロイン、躊躇する】

信矢「少し冷たく」行かないのかい？

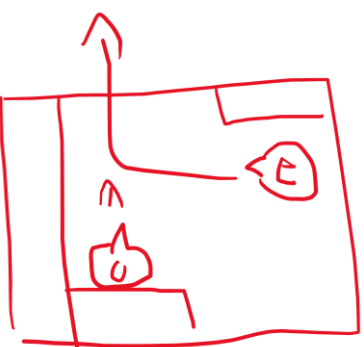
僕が真琴を殺した証拠を見つけられるかもしれないのに。
このチャンスを逃したら、僕は隠し部屋にある証拠を
処分してしまうかもしれないよ？」

【ヒロイン、隠し扉に向かって歩き出す】

SE:ヒロインの足音

【1st】

信矢「さすが。それでこそ、弓狩家の長女だ」



1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32

1 トラック7 ひみつきち

3 【階段を降りる二人】

5 SE:階段を降りる足音×2

7 【5】

8 信矢「真琴が、僕が部屋から出てこないって言ってたの、覚えてる？」

9 お前が僕から逃げるように東京に引越したあと、
10 仕事以外はほとんどこの地下室で過ごしてたんだ」

12 【ヒロイン「ここに何があるの？」】

14 SE:衣擦れ

16 【部屋に入ると、ヒロインの部屋を中心に、家のあちこちが映っているモニターが数台設置されている】

19 【5】

20 信矢「ここに？ そうだなあ、何でもあるよ。」

21 電気も通ってるし、冷蔵庫や寝心地のいいベッドもある。
22 それから——」

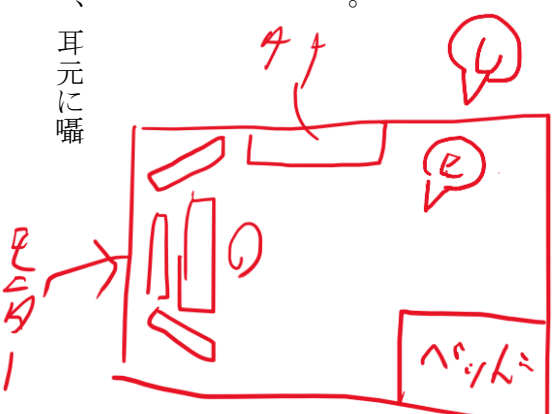
24 SE:足音ストップ

26 【ぎょつとして立ち止まったヒロインの背後から肩に手を置き、耳元に囁く】

29 【4 耳元】

30 信矢「高性能の監視カメラと盗聴器」

32 【ヒロイン、信矢を振り払って飛びのく】



1 SE: 激しめの衣擦れ

2
3 【9 数歩程度離れた距離】

4 信矢「あつははは！ びっくりしたよねえ。

5 僕もこの部屋を見つけた時は驚いたよ。

6 トイレと風呂にまでカメラがあるんだから。

7 防犯のためならこんな隠し部屋にモニターは

8 おかないだろうから、おじい様はそういう趣味だったんだろうね。

9 それか、家族の事すら信じてなかったか……

10 弓狩家の人間って疑り深いし」



11
12 【ヒロイン「ここで何をしてたの？」】

13
14 信矢「僕がここで何をしていたかなんて、きかなくても分かるだろう？」

15
16 【ヒロイン「家族を監視してたの？」】

17
18 SE: 衣擦れ

19
20 信矢「惜しいな。それだけだと不正解だ。

21 僕が監視してたのは家族じゃない。お前だよ、ヒヨ。

22 お前が産まれてから今日この日まで、お前だけを見てた。

23 部屋の壁一面に盗撮写真を張るような、

24 お定まりのストーカーじゃないから、わかりにくいかな」

25
26 信矢「けど、その棚に並んでるブルーレイには、

27 お前の過去十年分の記録が残ってる。

28 映像だけじゃなくて、通話も、学校での会話も。

29 東京でどう過ごしていたかも知ってるし——」

30
31 信矢「もちろん、真琴がお前に『二人で暮らそう』と

32 言った日も、職場から全部聞いてたよ」



1 【9】

2 信矢「あの時の会話ときたら……」

3 はらわたが煮えくり返りそうだったよ。

4 確かに、殺してやりたいと思った。

5 けど、あれの三日後にひき逃げに見せかけて殺すなんて、

6 疑ってくれと言ってるようなものだと思わないか？

7 僕なら絶対にやらない。

8 殺すよりもっと安全で簡単な方法があるからね」

9
10 信矢「例えば、そうだな……東京の大学受験に失敗させて、

11 地方の大学なら、面接試験のみ学費免除で入学できると言えば、

12 真琴はそれを選ぶしかないだろう？

13 その手の証拠なら、数え切れないほどここにある」

14
15 信矢「真琴が疑った通り、お前に友達がいなのは僕のせいだ。

16 東京で仕事が上手く行かなかったのもね。

17 ただ、あのパワハラ上司は完全に予定外。

18 お前を呼び戻す役には立ってくれたけど……

19 僕以外の人間がお前を傷つけるなんてありえない。

20 【楽しそうに】あいつを破滅させる手はずはもう整ってるから、
21 結果が出たらどれほどみじめに壊れていったか教えてあげるね」
22

23 【ヒロイン「どうして全部私にばらすの？」】

24
25 SE:衣擦れ

26
27 信矢「ん？ そうだな……もう隠す意味がなくなったから、かな。

28 だから全部話すんだ。

29 お前は僕じゃなくて、真琴を信じた。

30 真琴を信じて、僕を疑った。

31 そして真琴が死んだ今、その信頼は二度と回復できない」
32

1 【9】
2 信矢「ずっと、こんな日が来るのを恐れてた。
3 けど実際に来てみると思ったより悲しくなくて……
4 もしかすると、本当は早くバレたかったのかもしれないな。
5 だって、隠し事をするのは凄く辛いから」

6
7 【信矢、ゆっくりヒロインに歩み寄る】
8

9 SE:足音めくめく
10

11 【6→1】
12 信矢「いいお兄ちゃんだったんだよ、本当に。
13 けど、お前は僕をその仕事から解放してくれた。
14 お前は本当に、お兄ちゃん思いのいい妹だね」
15

16 【ヒロイン「どうしてこんなことを？」】
17

18 【1】
19 信矢「あつはは！ やっと聞いてくれたね。
20 そう、その質問だよ。
21 本当は真っ先にそれを聞いてほしかった。
22 “お兄ちゃん、どうしてこんなことを？” って。
23 そうしたら、僕はこう答えるんだ」
24

25 【c 耳元】
26

27 信矢「お前を愛してるからだよ。妹じゃなくて、女として。
28 お前が僕以外の男を愛するなんて耐えられない。
29 僕から離れて暮らすなんて許せない。
30 恋も、仕事も、お前には必要ないんだ。
31 僕だけがればいい。
32 僕がお前にきれいな服を着せて、美味しいものを食べさせて、
かわいい子供を産ませてあげる」



1
2 【ヒロイン、悲鳴を上げて逃げ出だそうとするが、信矢に腕をつかまれ
3 る】

4 SE:逃げ出す

5 SE:腕をつかむ

6
7
8 【3】

9 信矢「おっと……！」

10 ああ、残念でした。逃げられないよ。

11 妹がお兄ちゃんに力で勝てるわけないだろ？ ほら！」

12
13 【ヒロイン、信矢にベッドに放り出される】

14
15 SE:どさり

16 SE:スプリングが軋む

17
18 【信矢、暴れるヒロインをベッドに抑えつける】

19
20 SE:スプリングが軋む

21 SE:ヒロインじたばた

22
23 【1】

24 信矢「しい、しいー。落ち着いて。

25 大丈夫、大丈夫だから。

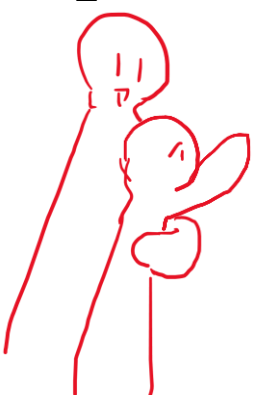
26 暴れると危ないから、両手はベルトで縛っちゃおうね」

27
28 SE:ベルト引き抜く

29 SE:ヒロインをベルトでベッドの柵に縛る

30 SE:暴れる音ストップ

31
32 【ヒロイン、助けを求めて叫ぶ】



1 【1】

2 信矢「そんなに叫んでも無駄だよ。

3 使用人も、全員家に帰してある。

4 今この屋敷には、僕とヒヨちゃんだけ。

5 しかもこの部屋は防音だ。だから叫んでも誰も来ない」

6
7 信矢「試してみようか？

8 いや！ 助けて！ お願いだからあ！

9 【少し待って】うーん……やっぱりダメみたいだね。

10 次は二人で一緒に叫んでみるかい？」

11
12 【ヒロイン、静かに泣き始める】

13
14 信矢「ああ、泣いちゃった。

15 妹を泣かせるなんて、僕はひどいお兄ちゃんだね。

16 でも、これからもっとひどくなる」

17
18 【7 耳元でひそひそ】

19 信矢「お兄ちゃんね、ヒヨがどんなにえっちな女の子か知ってるよ。

20 何をおかずにオナニーしてて、

21 ローターくらいなら入れたことあることも」

22
23 【ヒロイン、羞恥で暴れ出す】

24
25 S E : ドタバタ（数秒で少しずつ沈静化）

26
27 信矢「あははは！ このくらいで真っ赤になって。

28 もっと恥ずかしいこともいっぱい知られてるのに。

29 さて、じゃあヒヨちゃんの好み通りに犯してあげる」

30
31 S E : ブラウスを破く

32

1 【1】

2 信矢「どうしたの？ そんなに怯えた顔して。

3 動けないように縛られて、服を無理やり破かれて、

4 絶対になわなないような体格差のある男に

5 無理やり気持ちよくさせられるのが夢なんだよね」

6
7 【ヒロイン「お兄ちゃんとはいや」

8
9 信矢「血がつながってるかどうかなんて、

10 すぐにどうでもよくなるよ。

11 どうでもよくなるまで丁寧に、徹底的に犯してあげる」

12
13 信矢「まずは体をほぐそうか。

14 ヒヨちゃんは自分でするときも、乳首からじつくりと、だもんね。

15 こうやって、指の先でくすぐるみたいに」

16
17 S E：ベッドの軋み

18
19 信矢「ほら、もう気持ちよくなってる。

20 固くなった乳首、どうしてほしい？」

21
22 【ヒロイン「さわらないで」

23
24 信矢「やーだ。やめてあげない。

25 だって、泣いて嫌がってるヒヨちゃんすごくかわいい。

26 もっといじめて、もっと泣かせたい。

27 ねえ、キスしていい？」

28
29 S E：拒絶の衣擦れ

30
31
32

【1】

信矢「気持ち悪いくらい優しく」あは、そうだよな。

じゃあ、まだ全然濡れてないヒヨちゃんの処女まんこに、
お兄ちゃんの奥までぶち込んで粘膜ズタズタにしてもいい？」

SE：拒絶の衣擦れ

信矢「これも嫌？ わがままなヒヨちゃん。

でも、どっちかだ。どっちがいいか選ばせてあげる」

信矢「お兄ちゃんキスしてっっておねだりして舌を出すのと、
ヤダヤダ言っつて痛い思いするの、どっちがいい？」

【ヒロイン、怯えて何も言えない】

信矢「何も言わないの？ そう……。

じゃあ、トラウマ激痛コースでいこつか。
二度と僕に抵抗できなくなるくらい、
血まみれにしてあげる」

【信矢、ヒロインの両膝を抱える】

SE：ベッドの軋み

SE：衣擦れ

【ヒロイン、狂ったように暴れ始める。ベッドが軋み、ベルトの金具と鉄
パイプが接触してがちやがちや音を立てる】

SE：ジタバタ

SE：ガチャガチャ

信矢「【冷たく】ヒヨ、騒ぐのをやめないと叩くよ」



SE…ストップ

【1】

信矢「お兄ちゃん言ったよね、好きな方を選んでいいって。

なのに黙ってたのはヒヨちゃんだよね。

【ため息】しょうがないから、もう一度だけ聞いてあげる。

僕にどうしてほしい？」

【ヒロイン「お兄ちゃん、キスして」】

信矢「【わざと驚いて】キスしてほしいの？」

僕はヒヨちゃんの実の兄だよ。半分とはいえ血がつながってる。

そんな僕にキスしてほしい？」

SE…頷く衣擦れ

信矢「いいよ。ヒヨちゃんがそうしてほしいなら」

【ディープキス10秒ほどお願いします】

信矢「こーら。

舌、逃がさないでちゃんと絡めて。

キスしながら乳首もいじめてあげるから。

【キスしながら】そう、上手だ。いい子だね。」

【タイプキス30秒程度お願いします】

【1↓1と9の間】

信矢「上手にキスできたね。

じゃあ、痛くならないように沢山濡らしてあげる。

【体を起こしながら】だから、自分でちゃんと足を開いて」



1 SE…衣擦れ

2
3 【1と9の間】

4 信矢「もつと大きく。言われないとわからないかい？」

5
6 SE…衣擦れ

7
8 信矢「そう、それくらい。」

9 あれ？ へえ……もう下着に染みてるな」

10
11 SE…触れる水音

12
13 【突然触られてびくつとなるヒロイン】

14
15 SE…ベッドの軋み

16 SE…水音控え目にねちねち続ける

17
18 【信矢、体を伏せてヒロインの耳元でささやきかける】

19
20 【7】

21 信矢「お兄ちゃんにキスされて、乳首いじられて、

22 こんなに濡れるくらい感じちゃったんだ。

23 ちよつと触るだけで、どんどん溢れてくるね。

24 指二本くらい簡単に入りそうだな」

25
26 SE…指の挿入音

27
28 信矢「ほら、入っちゃった。」

29 どうしたの？ そんなにつらそうな顔して。

30 痛い？ そんなはずないよね。

31 こんなにぎゅうぎゅう締め付けて、

32 もっと激しくかきまわしてってねだってるのに」



1 SE…手マン激しめに

2
3 【7】

4 信矢「きもちいい？

5 自分の指じゃ、こんなに深いところまで届かないものね。
6 お腹ぐちゃぐちゃにかき混ぜながら、
7 クリもたくさんいじめてあげる」

8
9 信矢「いくときは、ちゃんといくって言っただよ。

10 勝手にいったらお仕置きだ。

11 上手にイけるように、耳も舐めてあげるから」

12
13 【耳舐め1分程度お願いします】

14
15 信矢「ほら、もういきそうになってる。

16 中がきゅうきゅうしまって、

17 イきたい、イきたいって。

18 声を出して言うんだよ。

19 かわいいこえで、イク、イっちゃうって」

20
21 【ヒロイン、申告しながら絶頂】

22
23 SE…ベッドが軋む

24 SE…衣擦れ

25 SE…水音ストップ

26
27 信矢「ああ、ちゃんと言いながらイけたね。

28 お兄ちゃんの言う事聞けて偉いなあ。

29 ヒヨちゃんのお腹のなか、どろどろに濡れてて、

30 溶けそうなくらい熱くなってる。

31 クリもパンパンに充血して、

32 こうやってちょっと引っ搔いただけで、もう——」

1
2 SE: 軽い水音

3 SE: ベッドが軋む

4 SE: 衣擦れ

5
6 【7】

7 信矢「ほら、またいった。

8 ここに僕のを奥までねじ込んで、

9 内臓引きずり出すくらい激しく出し入れしたら、

10 どのくらい気持ちいいかな。

11 ずーっとイキっぱなしになって、バカになっちゃうかもね。

12 服、もういらないよね？ 全部処分しておくから」

13
14 【信矢、ヒロインの残りの服を全部脱がせる】

15
16 SE: スカートのホック外して脱がせる

17 SE: パンツ脱がせる

18 ※ブラは拘束外さないと脱がせないのにつけたまま

19
20 【1と9の間】

21 信矢「入れるよ。心配しないで。

22 あれだけ奥まで丁寧にはぐしたら、

23 違和感はあるても痛くないはずだから」

24
25 SE: ファスナーおろす

26 SE: 挿入音

27 SE: ベッド軽く軋む

28
29 信矢「わかるかい？ 今、一番太いところが入った。

30 このままゆっくり奥まで入れるよ」

31
32 【ヒロイン「痛い、抜いて」】

【1と9の間】

信矢「痛いなんて嘘だ。

嘘だよ、嘘だ。

それとも、本当に痛くしてほしい？

ヒヨちゃんは温室育ちだから、

本当の痛みがどんなものか知らないものね」

【信矢、脅す様に体を伏せてヒロインに顔を近づける】

【1】

信矢「痛みで全身がひきつって、吐いてもやめてもらえないような、
本物の強姦を味わいたい？」

【ヒロイン、黙る】

【3 耳元で】

信矢「そう、いい子だ。

そのままじっとして、ゆっくり息を吐いて。

はあ……ああ、ほら……ヒヨちゃんがいい子にしたから、

もう奥まで入った。」

信矢「ヒヨちゃんのお腹の中、お兄ちゃんのでいっぱいだね。

まだ中イキは難しいかと思ったけど……

これなら全然大丈夫そうだな。

いつかできる予定だったカッコイイ彼氏との初体験を妄想して、

オナニーで開発してきたおかげだね」

信矢「まだちょっと苦しい？

じゃあ、突きながらクリも一緒に触ってあげるから。

いっぱい気持ちよくなろうね」

SE：ガン突きの水音



1 SE…パンパン音

2 SE…ベッドギシギシ

3
4 【吐息30秒程度お願いします】

5
6 【3 耳元】

7 信矢「ガン突きしながら」はは、可愛い声、出るようになってきたね。

8 気持ちいいのから逃げたくて、腰くねくねさせて、
9 余計にイイとこにあたってる」

10
11 信矢「イきそうなんだね。

12 いいよ、イって。

13 きゅうきゅう締まって苦しそうなヒヨちゃんのお腹のなか、
14 もっと乱暴にかき回してあげる。

15 ああ、今のでいった？ 想像しちゃったんだね。

16 媚び媚びの中イキまんこ、最高に気持ちいい」

17
18 信矢「愛してるよ、愛してる。

19 ヒヨも言ってよ。お兄ちゃん愛してるって」

20
21 【1】

22 信矢「聞こえてる？

23 喘いでばかりいないで、言えよほら、言えって！」

24
25 【吐息のみ十秒程度】

26
27 信矢「あーあ、壊れたみたいにイキっぱなし。

28 もうやだ？ つらい？

29 やだやだ泣いてばかりいないで、

30 愛してるって言えたら終わりにしてあげる」

31
32 【ヒロイン、言おうとするが快樂に阻まれて言えない】

1 信矢「え？ なに？ 何言ってるかわからないよ。

2 動物みたいに鳴いてないで、

3 人間の言葉でしゃべってくれなきゃ」

4 【1】

5 信矢「あーあ、全然喋れてない。

6 喋れない口なら、もうふさいじやおうね」

7 【キスハメ1分程度で、キスしたまま終わらせてください】

8 信矢「はあ……はあ……つはは、ひどい顔。

9 大丈夫？ 気絶してない？

10 ヒーヨ」

11 【信矢、ヒロインの頬を軽くたたく】

12 SE…軽くたたく

13 【ヒロイン「ベルトはずして」】

14 信矢「お、よかった。ちゃんと意識あったね。

15 ベルトは……そうだな。

16 まあ、まだ外さなくていいんじゃないかな」

17 【ヒロイン「どうして？」】

18 信矢「だって、ヒヨちゃんはしばらくこの部屋から出られないんだし」

19 【愕然とするヒロイン】

【1】

信矢「だって、ここから出したら逃げちゃうだろう？」

ああ、心配しなくても一生じゃないよ。

一週間くらいで、

お前が一生そこから出なくていいと思えるくらい、

居心地のいい部屋を用意するから」

【信矢、ベッドから降りて服装を整える】

SE：フアスナー上げる

SE：ベッドの軋み

SE：ベッドから降りる

【15と7の間 ベッドサイドに立つ距離】

信矢「とりあえず一晚様子を見て、暴れないって確信できたら

ベルトだけ外してあげる。

じゃあ、僕は病院と警察でまだやることがあるから」

【ヒロイン「待つて！ おいていかないで！」】

SE：ベルトをがちやがちや鳴らす

信矢「暴れると、無駄に手首を痛めるよ。

疲れてるだろうから、眠った方がいい」

【信矢、隠し扉の出口へ向かう】

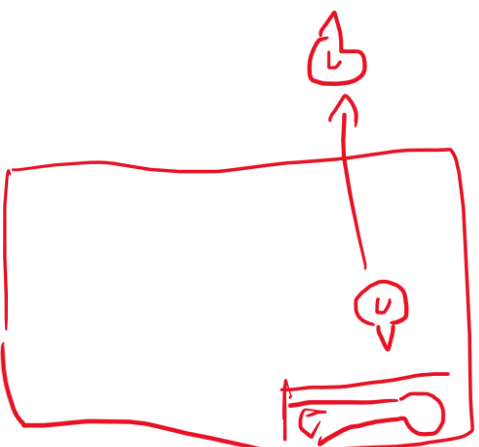
【ヒロインに背を向け、11に向かって移動しながら】

信矢「5〜6時間くらいで帰ってこられると思うけど、

トイレに行きたくなったら、そのまましちゃっていいからね。

あとで僕がきれいにしてあげるから。

じゃあ、いい子にしてるんだよ」



1	
2	SE:階段を上る音
3	SE:ベルトがちゃがちゃ
4	SE:隠し扉の開閉（閉まる音を少し立てる）
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	
32	

トラック8 かくれんぼ

トラック7の数時間後、死に物狂いでベルトを外したヒロインは外に出ようとするが、ドアは内側から開けられないように細工されている。仕方なく、帰宅した信矢を襲って逃げ出そうと待ち構えるが失敗し、さらなる強固な拘束を強いられる。

【ベルトをどうにか外せたはいいが、ドアが開けられず、無駄とわかりつつもクローゼットに隠れているヒロイン】

SE:隠し扉が開く

SE:階段を下りてくる足音

【16遠→16近】

信矢「階段降りながら」ただいまあ。

思ったより時間かからなかったよ。

けど、葬式の手配をどうしようか悩んでてさ。

ヒヨはどうした——【怪訝そうに】あれ、いない」

SE:足音ストップ

【16近】

信矢「そうか……ベルト、外せたんだね。

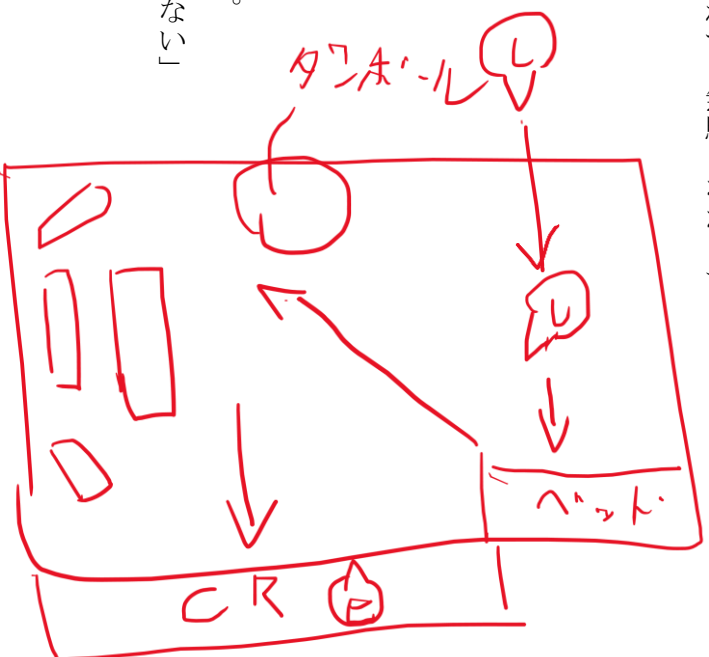
ちよつと緩めだったもんなあ。

けど、外から扉に細工しておいたから、

どんなに頑張っても開けられなかった——だよね？」

【信矢、ヒロインを威圧するように部屋の中をゆっくり歩きまわる】

SE:足音



【15と16の間】

信矢「そこで、こう考えた。

武器を見つけて、隠れて、

お兄ちゃんが帰ってきたら刺して逃げよう」

【15と16の間】

信矢「けど、この狭い部屋で隠られる場所なんて限られてるよね。

まずはベッドの下だけど……ここにはいなさそうだね」

SE:足音ストップ

SE:のぞき込む衣擦れ

SE:足音ス

【15と16の間↓9ヒロインに背を向けて】

信矢「じゃ、積み上げた段ボールの裏にいたりして？

いや、ここも可能性は薄そうだ。

とすると——」

【9↓1 ヒロインを見て】

信矢「このクローゼットの中にしか隠れないね。

ああ……緊張したヒロちゃんの押し殺した息が聞こえてくる。

心臓の音まで聞こえてきそうだ」

信矢「バレちゃったね。どうしようか。

もうここから飛び出して、破れかぶれで戦うしかない？

でも、僕はそれが賢いとは思わないな。

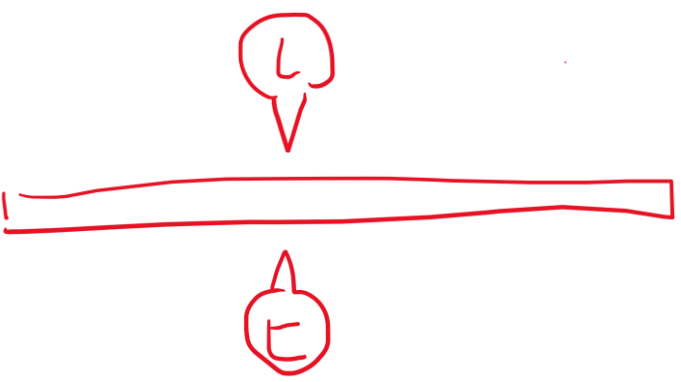
だってお兄ちゃんはお前より背が高いし、

もちろん力だってある。

護身術に格闘技も習ってるし、もう不意打ちは無理でしょ？

クローゼットを開けるのにもたついてる間に、

細くてかわいい手首を折られて痛い思いをするだけだ」



1 【1】

2 信矢「だから僕はね、大人しく自分でここを開けて、
3 “ごめんなさいお兄ちゃん、怖かったの” って

4 素直に言うのがいいと思う。

5 ヒヨちゃんがいっぱい辛くて、悲しくて、

6 どうしても逃げ出したかった気持ちは分かるから。

7 約束するよ。

8 言う通りにしてくれたら、怒ったりしないって」

9
10 SE: クローゼットがゆっくり開く

11
12 信矢「いい子だ。武器は何を選んだの？」

13 僕に見せてくれる？」

14
15 【ヒロイン、ハサミを差し出す】

16
17 SE: 軽々金属音

18
19 信矢「ハサミを壊してナイフにしたのか。

20 賢いなあ、ヒヨちゃんは。偉い偉い」

21
22 SE: 頭をなぐ

23
24 【ヒロイン「本当に怒らないの？」】

25
26 信矢「ん？ 怒らないよ。約束しただろ。

27 それに、今回は僕が悪い。

28 いきなりベッドに縛り付けられて、

29 頑張れば抜け出せそうだと思ったら、

30 誰だって必死になる」

31
32

1 【1】

2 信矢「それに……少し時間を置いたら、
3 僕も頭が冷えてきてさ。

4 一週間もこの部屋に閉じ込めるなんてかわいそうかな、とか、
5 わざわざ傷つけなくても、ヒヨは十分傷ついてるのに、とか。
6 それで……だから、もしヒヨがよかったら、
7 仲直り、できないかな」

9 【ヒロイン「ここから出してくれるの？」】

10
11 信矢「うん、出してあげる。

12 お風呂にも入りたいだろ？
13 ここに降りてくる前に用意してきたから、すぐ入れるよ」
14

15 【ヒロイン「私が逃げると思わない？」】

16
17 信矢「そうだね、逃げられちゃうかも。

18 でも、それでも大丈夫だなんて思ったんだ。
19 僕は絶対に逃げたお前を見つけられるし、
20 連れ戻せるから」
21

22 信矢「ヒヨちゃんも、その方がいいよね。

23 今からベッドに手足を縛り付けられて、
24 寝返りもうてない状態で一週間過ごすより、
25 僕の隣で自由にしてる方が、いいよね？」
26

27 【これを断ったら拘束されることに気づき、必死に頷くヒロイン】

28
29 信矢【「安心して」よかった！

30 でも、一つ約束してほしいんだ。
31 お風呂からあがったら、僕の寝室にくること。
32 僕は待つてるから——約束、破らないでくれるよね？」

1 トラック9 おせわ
2 トラック8の一時間後。
3 風呂上がりのヒロインがバスタオル一枚で深夜の部屋に行く途中、ふと廊
4 下で家電の存在に気づき、110番してみるが、当然信矢にバレてお仕置
5 きされる。

7 SE:足音。ぺた。ぺた。数歩

8 SE:足音ストップ

9 SE:受話器を取り上げる

10 SE:110

11 SE:呼び出し音

13 【3 電話口】

14 信矢「ハイ、110番です。事件ですか、事故ですか？」

16 【7】

17 信矢「それとも、実の兄に強姦されて困ってますか？」

19 SE:受話器がちゃんと置く

21 【玄関に向かって逃げ出すヒロイン】

23 SE:走り出す

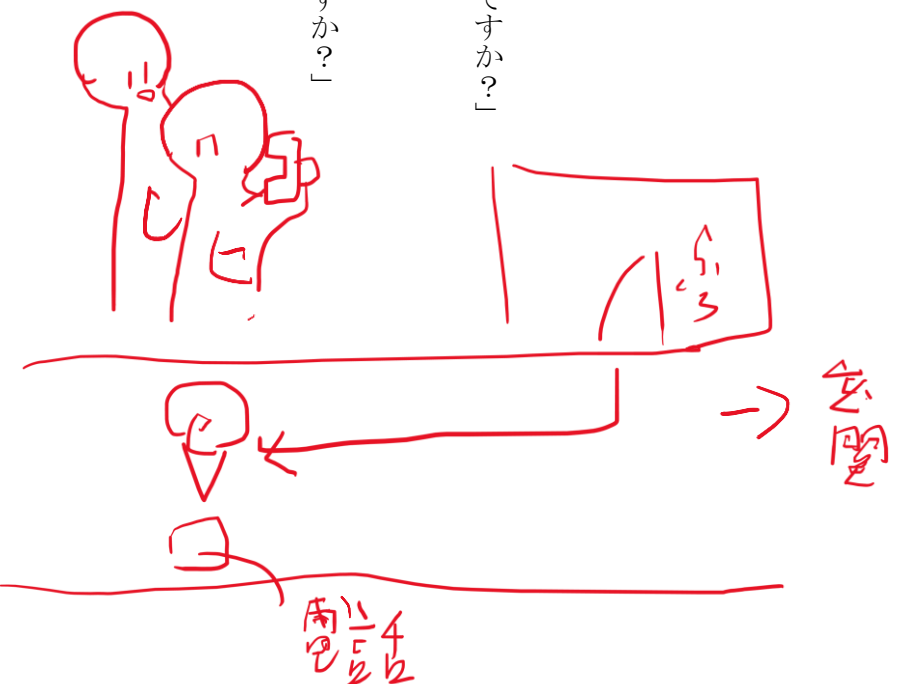
25 【5→13 遠ざかりながら】

26 信矢「馬鹿だなあ、ヒヨは。

28 僕がなんの用意もせずに、お前を自由にするわけじゃないじゃないか」

29 SE:玄関のドアがちゃがちゃ

31 【ドアが開かず、ドアを叩きながら叫ぶ】



1 SE:壁ドントントン

2
3 【13↓5 近づきながら】

4 信矢「無駄だよ。玄関も窓も裏口も、
5 全部あかないようになってる。
6 大体、バスタオル一枚で外に出るつもりか？
7 弓狩家の長女としての威厳と恥じらいは？」
8

9 【ヒロインの背後に立ち、一度だけ強くドアを殴る】
10

11 SE:ドア殴る1回
12

13 【すべての動きを止めるヒロイン】
14

15 【3 背後から】
16

17 信矢「無駄だって言ってるだろ。
18

19 大騒ぎしても、僕をイラつかせるだけだってわからないか？
20 それとも、わざと怒らせようとしてるのかな。
21

22 だとしたら、大成功だ。
23

24 僕を怒らせた感想は？ その結果どうなると思う？
25

26 なぁ、何とか言えよ。
27

28 聞いているんだから答えろよ！ なぁ！」
29

30 SE:ドア殴る1回
31

32 【ヒロイン「ごめんなさいごめんなさいごめんなさい」】
33

34 信矢「あは。また泣いちゃった。
35

36 ごめんなさいごめんなさいごめんなさいって、
37

38 泣いて謝って怯えて見せて、
39

40 そうしたら許されると思ってる」
41

42

1 【3】
2 信矢「残念だよ。仲直りできると思ったのに、
3 お前は隠し部屋で縛られてる方がいいんだね」
4

5 信矢「いいよ。望み通りにしてあげる。」

6 血が通わなくなるくらい両手足をきつくベッドに縛り付けて、
7 毎日ごはんを食べさせて、よごれたおむつを替えてあげる。
8 一週間もすれば、手足はじわじわダメになるだろうね。
9 でも、もうお前には手も足も必要ないんだ。
10 そんなものがあるから、僕から逃げようと
11 するんだろうからさあ！」
12

13 【恐怖のあまり失禁するヒロイン】
14

15 SE:おもろー
16

17 【5】

18 信矢「【優しく】あーあ、今度はおもらし？」

19 せっかくお風呂で綺麗になったばかりなのに。
20 ほら、こっち向いて」
21

22 【信矢、泣きじゃくるヒロインを抱き寄せる】
23

24 SE:抱き寄せる衣擦れ
25

26 【1】

27 信矢「ああ、よしよし。恥ずかしいね。」

28 もう大人なのにおもらしなんて。

29 大丈夫。お兄ちゃんが舐めてきれいにしてあげるから。

30 ね？ もう泣かないで。

31 ほら、足ひらいて。僕が舐めやすいように、もっと大きく」
32

1 【ヒロイン、泣きながら従う】

2
3 【信矢、その場にひざまずいて汚れたヒロインの股を舐める】

4
5 SE:しゃがむ衣擦れ

6
7 【1 下から】

8 信矢「いつまで汚れたバスタオルにしがみついてるつもりだい？
9 それ、床をふくのを使うから僕に渡して。」

10 自分で汚したんだから、それくらいできるね？」

11
12 SE:バスタオルばやり

13
14 信矢「いい子だ。そのまま動かないで。僕がいいというまで」

15
16 【1分程度クンニ】

17
18 信矢「こーら。ダメじゃないか、こんなに溢れさせて。

19 これじゃ、いつまでも終われないだろ。

20 お兄ちゃんに舐めてほしくて、わざとやってるのかい？
21 しょうがないな。指で奥から全部かき出してやらないと」

22
23 SE:指入れる水音

24 SE:出し入れ激しく

25
26 信矢「ふふ、後ろにドアがあるから、

27 腰逃がしたくても逃がせないね。

28 中がヒクヒクして、膝がガクガク震えてる。

29 聞こえるかい？ この下品な音。

30 お腹の奥の方、こうやって指でぐりぐりしつとすると、
31 じゅぶじゅぶ泡立って溢れてくる」

32

1 【1 下から】

2 信矢「乳首までそんなに硬くして。

3 下から見てもわかるほど、恥ずかしいぐらい勃起してる。

4 お兄ちゃんは手伝ってあげられないから、

5 胸は自分で揉みなさい」

6 【ヒロイン、嫌がる】

7
8
9 SE：否定の衣擦れ（髪が鳴ってる想定です）

10
11 信矢「いや？ じゃあお前の部屋からローター取ってきて、

12 両方の乳首に張り付けてマックスで動かしてほしい？」

13
14 【ヒロイン、泣きながら従う】

15
16 信矢「そうそう、やればできるじゃないか。

17 いい子だね、ヒヨ。いい子だ。

18 恥ずかしい勃起乳首自分でつまんで、つねって、

19 ちゃんと大人しくさせるんだ」

20
21 信矢「さつきから、甘イキ全然とめられないね。

22 お前が乳首つねるたびに、僕の指きゅうきゅう締め付けられて、

23 ねばっこいおもらしが床にまで垂れてきそうだ。

24 全部舐めてあげなきゃ」

25
26 【吸う音多めにクンニ1分程度お願いします】

27
28 【ヒロイン、イって立っていられなくなる】

29
30 SE:ドアがガタツと鳴る

31 SE:座る込む

32

1 【1】

2 信矢「あーあ。座っていいなんて一言もいってないのに、
3 勝手に座り込んで。

4 お前は本当に、お兄ちゃんの言うことを
5 何一つ聞けない悪い子だな」
6

7 【ヒロイン「ごめんなさい」】
8

9 信矢「謝っても仕方ないだろう」
10

11 【7 耳元】

12 信矢「来なさい。悪い子にはお仕置きが必要だ」
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32

1 **トラック10 結婚ごっこ**

2 信矢の部屋で支配種付けセックス
3 やってるだけのトラックです
4

5 【ベッドにヒロインをうつぶせに放り出す信矢】
6

7 **SE:ドサリ**
8

9 **【1c】**

10 信矢「【ベッドに上がりながら】うつぶせになって。
11 窒息しないように、枕抱いて」
12

13 **SE:ベッドの軋み**

14 **SE:枕抱へ**

15 **SE:ズルト外す**

16 **SE:ファスナーおろす**
17

18 【次のセリフ言い終わりで寝バック挿入】
19

20 信矢「もう十分に濡れてるんだ。
21 前戯は必要ないよ——ね【奥まで突っ込む】」
22

23 **SE:強めの挿入音**
24

25 **【5】**

26 信矢「っ……はは！ ああ、締まる……！！
27 入れただけでイっちゃったねえ。
28 こーら、逃げようとしな。い。
29 うっ伏せのまま入れられると、
30 僕の形が分かるくらいミチミチになって苦しいねえ。
31 僕の脚でお前の脚をがっちり挟んで、
32 絶対逃げられないようにガン突きしてあげる。」



1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32

【吐息のみ1分〜2分程度長めにください】

SE：水音

SE：パンパン

SE：ベッド軋む

【7 後ろから】

信矢「苦しい？ もうイケない？

じゃあ、あと十回イったら終わりにしてあげる。

自分でちゃんと“イク” っていうんだよ？

ほら、一回目！

はあ、はあ……あ、ああ……もう二回目？

これならあつという間に十回イケそうだ」

【吐息のみ30秒程度お願いします】

信矢「ちゃんと数えてる？

もう、一突きするたびにイってるみたいだけど？

数えられないんじゃないねえ。

終わらせてほしくないのかな」

【ヒロイン、必死に「イってる」と叫んでもがく】

信矢「イってる？ 本当に？

じゃあ、これで終わりにしてあげる。

中にだすから、ほら、もう一度イケ！ 【射精】」

SE：ストップ

信矢「はあ……はあ……

あゝ、いっぱい出たねえ。今ので赤ちゃんできたかな」

1 【5】
2 信矢「ほら、へばってないで体を起こす。
3 後ろ向いたまま、僕の上に座るんだ」
4

5 【ヒロイン「もう無理」】
6

7 信矢「無理じゃない。
8 お前は寝てるだけでいいんだから、
9 僕ができるなら一生できる。
10 僕はお前が泣いても、喚いても、失神しても、
11 満足するまで犯し続ける。
12 いやいや言っでないで、腰落として」
13

14 【背面座位で挿入】
15

16 SE:挿入音
17

18 【3 後ろから】
19 信矢「ほら、すんなり奥まで入った。
20 さっきと違うところに当たって気持ちいいねえ。
21 この体位だと、おっぱいも可愛がってあげながら、
22 子宮の入り口とんとんできるから、
23 きっとお前も気に入るよ。
24 ほら、とんとん、とんとん」
25

26 【ヒロイン、あっけなくイク】
27

28 SE:ベッドの軋み
29

30 信矢「うわ、もうイった。奥の方弱いんだ」
31
32



1 【3 後ろから】

2 信矢「さっきは少し乱暴でこわかったね。

3 ごめんね。でも今度は優しくしてあげる。

4 こうやって、乳首きゅつきゅってしながら、

5 奥に入れたまんまのちんぽ動かさないで、

6 ぐりぐり、ぐりぐりって」

7
8 信矢「あは、締まる締まる。

9 んー？ 変なイキ方してる？

10 これ、怖い？

11 よしよし、じゃあキスしよう。

12 顔こっちに向けて。キスしながらゆっくり突いてあげる」

13
14 【キスハメ1分程度、やさしめの吐息でお願いします】

15
16 SE:出し入れする水音（優しめなのでパンパンなしか控え目で）

17
18 【1】

19 信矢「ヒヨちゃんがいくたびに、僕のぎゅーって締め付けて、

20 精子ちようだい、ちようだいておねだりしてるね。

21 ああ、だめだな。

22 お仕置きしてやろうと思ってたのに、

23 可愛くてどうしても甘やかしたくなる。

24 ヒヨちゃんかわいいね。かわいい、かわいい。

25 もっとキスしたい？ したいよね。

26 気持ちいいキスたくさんしよう」

27
28 【ディープキス長めにください】

29
30 信矢「自分から腰、動いちゃってるね。

31 もっと激しいのが欲しい？

32 よかった。僕ももどかしくなっていたところ」

1 【1↓5】

2 信矢「ああ、でも……イキ顔見ながら出したいな。
3 一回抜くよ」

4
5 SE: 抜く水音

6 SE: 体位変える衣擦れ

7
8 【背面座位から対面座位に】

9
10 【5→1】

11 信矢「はい、ぐるっと回ってこっち見て。
12 抱き合ったままもう一回、僕をお前の中に入れて」

13
14 SE: 挿入音

15
16 【1】

17 信矢「ああ、そう。

18 素直でいい子だ。

19 僕の首に腕回して、腰に足絡めてて。

20 動くよ。激しくするから」

21
22 SE: 水音

23 SE: パンパン

24 SE: シンドゥ軋む

25
26 【3 抱きしめた状態でガン突きしながら】

27 信矢「ああ、いいよ、きもちいい。

28 一突きするたびに、締まって……！

29 食いちぎられそうだ……！ ああ、好きだ、好き。

30 好き、好き、好き……愛してる……！」

31
32 【3 抱きしめた状態でガン突きしながら】

1 信矢「ヒヨちゃんも、お兄ちゃんが好きだよね？」

2 言わなくてもいいよ、わかるから。

3 ずっとこうしてたい。

4 ああ、けど……もう……！」

6 【終わりに向かう吐息1分程度】

8 信矢「出すよ、一番奥に……全部……！」【射精】

10 【信矢、ヒロインの体ぎゅっと抱きしめたまま呼吸整える】

12 信矢「はあ、はあ……はは、まだ出てる。

13 ヒヨちゃんのお腹のなか、僕の精液でパンパンだね」

15 【少し体を離して顔を見る】

17 【1】

18 信矢「イキ狂ったあとのヒヨの顔、

19 とろーんとしてて、かわいい。

20 今日一日で、今まで見たことのない顔が

21 たくさん見られて嬉しいな。

22 これから毎晩その顔が見られると思うと、

23 出したばかりなのにまたたってきそう」

25 信矢「真琴には感謝しないとな。

26 お前に疑われて悲しかったけど……結果的にこれでよかった。

27 いいかい？ 法律上はどうあれ、僕とお前は夫婦になったんだ。

28 外面（がいめん）なんて、いくらでも取り繕える。

29 沢山子供を作って、幸せでいっぱいの家を作ろうね」

31